

せぶんがーリクエスト短編集

世 端 vol.03

成人向け
R18
ADULT ONLY
18歳未満
購入・閲覧禁止

せぶんが一先生の作品には、いつもお世話になってます！
是非とも先生に私の好みのシチュエーションで描いてもらいたいと考え、
依頼させていただきたく思いました。

ヒロインは古風な女番長。黒髪で長髪、ロングスカート。
そんなヒロインに憧れる舎弟視点でお願いしたいです。

凛々しく喧嘩無敗のヒロインだったが、成敗したチンピラ達の恨みを買う。
そんなある日、ヒロインが行方不明になり、
数日後に舎弟のスマホに映像が届けられた。
そこに映し出されていたのは、最初は強気だったヒロインが
筋肉マッチョに喧嘩で負けて恐怖失禁、もう許してと命乞い、
三下達の言いなりになって散々犯される。
卑猥なラクガキをされて全裸で裸踊り、屈辱のチン媚び、
チンピラ達の肉奴隷になると屈服宣言しているという衝撃の内容だった！

という感じで、NTRではないですが派生型のBSSで、
憧れの人堕とされる様子をモノクロ漫画風に描いてはいただけないでしょうか？
もし気が向かれましたら、是非とも引き受けて下さい！

女番長無様敗北



投稿日:2022年1月21日

「随分とウチのもんが
世話になったみたいじゃねーか

よっ!!」

まつば りょうか
松羽 涼華

「二度と逆らえねえ
身体にしてやるつか? あ?」

涼華さんはうちを仕切ってるトップだ
喧嘩も強えし何より
俺らみてーなもんを誰も見捨てはしない

「いいか? この辺仕切ってるのは
アタシらだからな?
ザコが粋がつてんじゃねーぞ?」

「涼華さん!!」

滅茶苦茶最強で最高のリーダーだ
俺らは全員涼華さんのためなら命張れる
俺らにとって憧れの存在
それが涼華さんだ

そんな涼華さんと
連絡が取れなくなって3日が経った！

俺らが必死になって探しても
手掛かりは掴めなかったが

ある日俺らの元に
1本の動画が送られてきた
そこに映っていたのは…

涼華…さん？

「グハハハWW何だコイツW
雑魚じゃねえかW」

「ぐっもうわかった…
はっ離せ…」

「随分とウチのもんが
世話になったみてえじゃねえか？」

「おいっ!!人にモノを頼むときは
『お願いします』じゃねーのか?W
出来ねーんならこのままシメて
あの世行きだなWWWW」

「おっ…おねがいしますうう…
離して…くだ…くだしい…
助けて…助けてくだっ下さい!!!」

「グッハハWW
こいつ泣きながら命乞いしてるぞW」

「ザコが粹がつてんじゃねーぞ?
でめえ二人じゃ勝てねえ癖によ
俺らに二度と逆らうな
わかったか?あ?」

「わかりつわかりました!
ごめんなさい!ごめんなさい!」

そこには泣きわめきながら命乞いをする
涼華さんの姿が映し出されていた…

「おしW服脱がせろW」

俺らは目を疑った

「おい見ろよW
こいつ胸でっけえぞW」

「こんなふうに下げて男に勝てると思ってたのか? W」

「はっw所詮雌が調子乗ってただけだったなw」

「くっ…勝手な事を…っ!!」

「でかこいつwビビって漏らしてんじゃねーかw」

「ガン飛ばしてんじゃねえぞ？
舐めてんのか？あ？」

「クソ生意気だなこの女
まだ自分の立場
分かってねえみて——だなW」

「メスにはメスらしく
反省してもらうかw」

「全部脱げ女っ!!
二度と逆らえねえ身体にしてやるよw」

「もっと気合入れて
振れやWW声も小せえぞW」

「こっつ降参…
降参でくす!!」

「は?何だコイツ
抵抗してきやがるW」

「おいこの手どけろやW
チ●コはいんねえだろW」

「グハハハWみつともねえWW」

「おい誰が隠して
良いつつたよWW」

「よしWんじゃそろそろ
ぶち込むかWWW」

「ちょ!!それだけは…
それは…ダメ!!」

「おっお願いします!!
それだけは…!!」

「おっ私松羽涼華は…
もう二度と皆様に
逆らわないことを…
ちっ誓いますっ」

おっおっ



「わっ！分かりましたあ！！
生かして頂いて
ありがとうございます！！」

「へへwww
自分の立場が
分かってきたかw」
「よし！発目行くぞ！！」

おっ

「俺らに逆らわないって
誓ったよな？w
今日からお前は俺らの
肉奴隷なw」

「そっ…そんな！！」

「生かしてもらえただけ
ありがたいと思えよw」

「分かったか？！便器！！」



「一発って…?!」

「中出しに
決まってんだろw」

「てめえは俺らの
肉奴隷だからなw
何されてもありがたがれ！
分かったのか?」

「くっ…っはい…
中出しして頂いて
ありがとうございます…」

「グハハハwじゃあ次は
裸踊りやつてもらうかw」

三下共の言いなりになり
凌辱されて行く涼華さんを
俺らは見ていることしか
できなかった…

「おらwもっと
気合入れて踊れよw」





お女のコに
おちんぽをこい♡

おっおちんぽ♡
おっちんぽ♡

「グハハWW
傑作だわWWW」

「ここにいる全員満足させろよ? W
肉奴隷の義務だからなW」

「ほらW覚えてませたセリフも言えやW」

性奴隷
肉奴隷

「よし望み通り使ってやるW」

イググググ

おっ
おっ
おっ

「よしこれ見てる奴らに言ってやれww」

「でっけえ声でだぞ」

「おっ...お前ら...見てる...か？」

「私は見ての通り...こっこの方々の性欲を処理するためのだけの...穴っぽこ...肉奴隷になったんだ...」

「もう...前みたいに面倒見てやることは出来ないけど...せいせい元気でいてくれ...」

「あっあと...私のことは探さなくていい...」

「私...松羽涼華は...肉奴隷として服従すること...を...しっ幸せに思っているからなっ...」
「だからもう会うこともない...一生...性処理要員として...生きていくから」

それ以来...
俺たちはもう涼華さんと会うことは出来なかった...
今もどこかで涼華さんは...あいつらの都合のいい女として生きてるんだろうか

いつも更新楽しみにしております。
もも先輩の続編を描いて欲しくなりましたのでリクエスト受けて頂けると幸いです。

設定

もも先輩 JK2・彼氏りゅー君・寝とった先輩(3年)

前回の続きで、先輩とももの関係は続き、
りゅー君にはバレていない。(りゅー君とは先輩命令で付き合っており、Hもしてるが
すぐイクりゅー君に呆れている)

シチュエーション

- 1.学校帰り、「ねえあんたすぐイクのどうにかしたら？
この前あげたオナホで練習しなよ」的な感じで呆れ+イライラの態度で言う。
- 2.ホテルで制服上下を横に置き、変態下着・乳首ピアス・落書きで立たされてる
ももの姿。(遅刻した為立たされており、理由と謝罪を言っている)
理由:先輩の命令通りりゅー君にオナホを使う指示をしていた
「だらしのないのは身体だけじゃないんやな」的な感じで胸を鷲掴みにされ、
お仕置きが始まる。
- 3.ちんぽを顔に近づけられ、触るの禁止、匂いを嗅ぐののみを許された状態で、
おもちゃでオナニー。(10回アクメまで)
- 4.挿れる準備をしろと、ソファに座ってちんぽを出した先輩をパイズリフェラ。
(バイブを入れられたままで、ビクッビクッしながらしている)
- 5.ソファにいた先輩にそのまま乗り、対面H(内容おまかせ)
- 6.りゅーがすぐイク体位でさせろと言われ、立ちバック。
既にアクメしまくりのせいで締りが緩くなっていたので、2の時に撮っていた写真を
りゅー君に送ったと言われ、バレるかもしれないことに興奮し、締め付けがよくなる。
- 7.最後に朝までHしてぐったりしたももが映って終わり。
(落書きでりゅー君でイッタ回数0、先輩でイッタ回数〇〇とあると嬉しい)

続・年上チアリーダーの彼女を 先輩のデカチンに寝取られる



投稿日:2022年1月28日

「えっももセンパイ…
これって…」

『オナニーホール
って言うの…
それ使って』

ももセンパイと付き合って
1年ほどが経ったある日
ももセンパイが急に
オナホを渡してきた…

最近ももセンパイは少し変だった
休日は連絡が付かないし
前みたいにエッチするときに
優しくしてくれたりも
しなくなった…

『相談…したの
りゅーくんとのエッチのことで…』

「相談って…だっ誰に？」



『そうしたら…
これ渡して彼氏がすぐイクのを
直す練習をさせたほうがいいって
言われたの』

『ちゃんと練習して治るまで
エッチもしないほうがいいって』

頭が真っ白になった
ももセンパイとは
体の相性も良いと思ってたのに
それに相談した
【誰か】って「一体…」

そんなことが頭の中で
グルグルしている内に
ももセンパイは立ち去ってしまった

「随分遅かったじゃねーかよ」

『ごっごめんな…さい…』

「ちゃんと渡してきたのか？
りゅークンにW」

「…渡して来ました」

私は今日彼氏を傷つけるような
最低なことをしてしまった…
それも何もかも「この人」のせい

私とりゅークンは
部活の規則を破って付き合っていた…
でもそれが「先輩」にバレて
写真で脅され私は先輩の『セフレ』になった…

「まったく渡すまでに
随分時間がかかったなW
1週間くらいか？W
だらしね」のは
この体だけじゃねーんだなW」

女の子の体を
性処理の道具としてしか
見てないような最低男…

自分勝手な理由で
りゅークンまで傷つけるようなことを
私にさせて…本当に最低

あゝ♡

「よしじゃあ
りゅークンにオナホを
渡して来れたももには」

レシ♡

「センパイチ●ポ
本日から解禁☆」

このチ●ポ
以外は…♡♡♡

りゅークンにオナホを
渡す命令が出されてから一週間…
渡さないとオチ●ポ禁止だって言うから…
ゴメンなりゅークン…

「あっ…センパイチ●ポおお♡
もうバッキバキいい♡」

私もうこのチ●ポじゃないと
我慢できないの…♡♡♡

ブルン

♡♡♡

「へへへwwチ●ポ見た途端
発情しやがってww
まあ一週間ぶりだもんなw」

「センパイ♡♡
ちゃんと彼氏に
オナホ渡してきたので…
ご褒美下さい♡♡」

「つたくさかりやがってw
まだ駄目だぞも♡
俺も待たされたからなw」

「お仕置きが
先だ♡」

『あっ♡ぐう♡ぐう♡♡♡』

「どこで何回目のアクメだ？
ちゃんとわかるように言え♡」

『クリでええ♡あっ♡あっ♡
やっぱりGスポでええ♡
7回目のアクメでしゅ♡ぐう♡ぐう♡♡♡』

「へへへWWいいぞもも♡
10回いけたらチ●ポ触って
いいからなW」

「彼氏持ちの癖に

浮気チ●ポ嗅ぎながら
ガニ股でオナニーとかW
マジで最低の変態女だなWW」

最低な変態女…
そうさせたのは自分の癖に…でも…

そうじゃないと
このおちん●ん貰えないなら…

センパイ好みの
最低の変態女でも良い…♡

『あっ♡今度はクリでええ♡
8回ええええ♡
潮吹きアクメキメますう♡♡♡』

「へへWW派手にイッたなWW
あと2回だぞ♡気合入れていけ♡WWW」

『はっはっ♡チン嗅ぎオナニー
頑張りました♡♡♡』

りゅークンにはしてあげられない
エッチな技も…今ではもう
すっかり慣れさせられちゃって

「挿れる準備なんだから
しっかり吸い付けよ」
一発抜けたら念願のチンハメだぞ♡」

センパイのチ●ポで
してもらおうなら

なんでもしてあげたく
なっちゃう!! ♡

「おお♡チンハメって聞いたなら
ギア上がったなWW
いいぞももっ♡」

「全部受け止めるっ!!」

ギア上がったなw
いいぞももっ♡

「全部受け止めるっ!!」

Ai, Ai,

「よし言いつけ通り溜めて見せられて偉いぞ〜」

「そのまま跨れりゅーくんがすぐイッちやう体位でな〜」

「はいっ♡」

「はい♡」

「それではおちんち●上から失礼いたします♡♡」

「いよいよ…♡1週間ぶりのセンパイのデカチ●ハメられる♡」

「へへww随分ゆっくり挿れるなww」

「だってええ♡りゅーくんのと違って…色んな所に引つかかつて…あっこれヤッバイ♡」

「へへwwさっさと挿れるやオナホ女ww♡」

『センパイイイイイ♥♥♥
もうイケないいい♥
休ませでええ♥』

「へっWWWイキまくって
緩くなってきたぞWWW
まだまだ処理させろやW」

「マ●コ締めろやW
今までのバメ撮り
りゅークンに送っちゃうぞ？
いいのか？」

そっそれだけは…ダメ
りゅークンにバレちゃったら…
私が最低の変態女だって
バレちゃたら…♥♥

んほま
おま
お

「へへWWWバレたこと想像して
締め良くなったなWW
やっぱり変態だなももはWW」



「ふう〜久々にもものマ●コ使えて
出し過ぎちまったわw」

「てかもうお前あの粗チンじゃ
一生満足できねーだろw
後半イキまくって顔ヤバかったぞw」



7→♡

7→♡

性処理マ●コ

性処理マ●コ

リムで
1ヶ月に回数

0回(楽)

(セキイキボデー
20回は付
きたー)

ド●オ●

「あれw完全に飛んじまったかw
まあいつかwもう朝だから先帰ってるわw」

「掃除しとけよ」

あと次の命令考えとくわwww
まだまだ楽しませてもらうからな♡ももちゃんw」

いつもイラスト楽しみにしております。
リクエスト受けて頂けると嬉しいです。

名前:みゆ JK巨乳 茶髪ショート

学年1の美少女・可愛いと自覚しており、どんな奴にも強気陰キャにも優しく
女神と言われているが、裏では陰キャを見下してる。

趣味はブランド物とイ●スタ

彼氏はサッカー部のイケメン同級生で有名カップル。(経験人数は彼氏のみ)

話の大筋

裏垢でパパ活をすると同級生の陰キャが来て、大金を渡すと言われ、
ちょろそうだしと思い、1回を条件にHに応じるが、
簡単にイカされ、その後も関係は続き、最終的に快樂堕ちしてしまう。

欲しいシチュエーション

- ・即堕ち2コマで足をガクガクさせながら許して欲しいと懇願する。
- ・犬のコスプレ
- ・フェラが嫌なのにちんぽのために一生懸命ノーハンドフェラ
活用して欲しい設定
- ・彼氏の存在を活用
- ・イ●スタ好き

クラス1の美女をパパ活で彼氏から寝取る



投稿日:2022年2月25日



高●2年
クラスの男子とか
イースタでは
みゆたんって
呼ばれることが
多いかな？

学年一の美女とか
天使とかって
よく言われてるけど…

まあ正直自分でも
そう思ってるかも(笑)

イースタ垢も
フォロワー3万人いったし
学校では一番イケてる
サッカー部の男子が彼氏だし♡
好きなモノはイースタと彼氏♡
それからブランドモノとか？
あとそれから…

「ねえつなに読んでるの？♡」

「えっ華田さん？！」

ビックリされるけど
色んな男の子に話しかけるのも好き♡
何で自分に話しかけるんだらう？
ってキョドってるの(笑)

それからパパ活で稼ぐのも好き♡
彼氏もクラスメイトも知らないけど(笑)

男ってほんとにちよろい
若くて可愛い私みたいな女の子に優しくされれば
すぐ嬉しくなってお金出しちゃう哀れな生き物
こうやってチャホヤしておけば
みんな私の味方♡
ホントに男に生まれなくてよかった♡

でも…いつものように
裏垢で知り合ったパパと
会うことになった日…

「で…何で同じクラスのあんたが
ここにいるわけ？
そんなに絡みもないでしょ？」

「何でってw
みゆたんの今日のお相手が
僕だからだよw」

まさか同じクラスの奴に
裏アカがバレるなんて…
しかもよりによって
普段絡むのも嫌なくらい
キモい陰キャ…

「悪いけど
パパ活って言っても
誰でもいいわけじゃないから
…帰ってくんない？」

「グフフwいいの？
このまま帰ったら
裏垢のこと僕がみゆたんの
彼氏とかクラスメイトとかに
言っちゃうかもしれないよ？w」

「脅しのつもり？
アンタみたいな陰キャと
私の言うことだったら
皆どっちを信じると思う？」

「グフフw脅しってわけじゃないよw
ちゃんとお金も用意してきたんだ♡」

「えっそんなに？！」

面倒なヤツだと思ったけど…
ヤれると思ったらこんな大金出しちゃう
位にはバカなのね

まあチョロそうだし
男なんて一回やらせれば
後は言うこと聞くようになる
単純な生き物だし…

「わかった
ただしこの一回だけね
それと裏垢のことも
今回のことも誰にも言わないこと
言うこと聞ける？」

「おっけー！やった♡
みゆたん大好き♡」

全く男って本当に哀れな生き物…
まあどうせ童貞だろうし(笑)
さっさと終わらせて帰るか

#パパ活♡

「うひょおおお♥♥♥
みゆたんま●こ最高おお♥♥♥」

正直舐めてた…こいつ
ち●こも大きいし…!!

「さっきっから
イキっぱなしでしょ? w
みゆたん♥」

良いところ見つけるの…
上手すぎるっ♥

でも…調子に乗らせちゃ
絶対ダメっ!

「そっそんなこと…ない!
彼氏の方が…
上手いし…あっ♥」

「グフフっw
嘘はダメだよだって」

おっ?
グニイ〜♥

「も…素直じゃないなあ
そう言う子には…」

「全然…そんなことない…っ
さっさと終わらせてほしい
だけ…だから!♥」

「みゆたんのおま●●」
『このおちんち●
気持ちいいよおお♥』って
ぎゅうぎゅう締め付けて
離してくれないもんw♥」



「お仕置きが
必要だね♥」

なにこれえ…♥
全然知らないところ当たって…
自分じゃどうにも出来ない♥
勝手にイカされちゃううう♥

「グフフっwそんな声出して
イってないとは言えないよねw」

「どうもみゆたんさえ良ければ
今後も遊んであげるけど？」

人生で初めて味わった絶頂感！
体の相性ってヤツを初めて体験した

「かつ…考えておく…」

「グフフw楽しみにしてるね♥」

それ以来私はー

「似合ってるよ♥
みゆたん♥」
「ちょっと…
いくら何でもこれは…」

この男とのセックスにハマってしまった

「女の子にこんな格好させて…
本当に変態なんだから♡」

「グフフWそんなこと言って♡みゆたんの方こそ
彼氏とのデート断って僕に抱かれに来る
変態さんでしょ?W」

「それは…あんたが言う事聞けないと
もう会わないって言うから…」

「みゆたんは雌犬なんだから
ご主人様の言う事聞くのは当然でしょ?」

「ご主人様って…♡」

「ほらみゆ!」

「服従のポーズ!W」

「わっわん!♡」

言う事を聞けないと

もうセックスしないと脅され
下品な芸を沢山仕込まれて…

いつの間にか

この男を悦ばせる為の
雌犬になっていた

「よしよし♡良い子のみゆには
『おもちゃ』をあげようね♡」

「あっ♡おち●ぼ様あ♡」

「ほくらみゆの大好きな
おもちゃだよ♡」

「今日もこれでいっぱい
遊んであげるからね♡」

「上手にべろべろ出来たら
『ご褒美』だよ♡♡」

目の前におち●ぼ様を
差し出されたらー

ビュルルルルッ

すぐに射精させられる♡

「おおっ W上手になったねみゆ♡
すっごいバキューム♡♡
最初はあんなにフエラ
嫌いだったのにね♡」

思いっきり吸い上げながら
顔を前後させて♡
舌でずっと裏筋と亀頭を
刺激し続けられは…

フェラで一発抜いたら
いいよ『ご褒美』タイム♡♡♡

一番奥で飲み込めて偉いね♥♥
「それじゃ良い子のみゆには
『ご褒美』タイムだよ♥」



身動きの取れない体勢で
一方的にピストンして貰う

わんわん交尾♡♡

「グフグフっW声凄っW♡
みゆはわんわん交尾
大好きだもんね♡♡」

まっ
れえ♡

「こらっ！雌犬は
人間の言葉は喋らないでしょ？
気持ちいい時は
どうするんだった？」

わおほっ♡♡わおほっ♡♡
わん♡♡わん♡♡
わお♡♡わお♡♡

「そうそう♡いい子いい子♡
まだまだいっぱい
遊んであげるからね♡」

こいつの性欲は凄まじくって…♡
この後何度も
わんわん交尾でイカされ続けた…♡♡

「そっそっ♡
遊んでもらったら
後片付けしないとね♡
残ってる精液も
全部搾り取るんだよ?♡」

カー

「ちょっと…写真は
撮らないでって…♡」

「いいでしょ?♡
この写真みゆのイースタに載せてよ♡
みゆはこんなことして喜んじやう
変態雌犬だって皆に知って貰おう♡
勿論本垢の方ね♡」

「それは流石に…」

そんなことしたら…
彼氏にバレるところか
人生終わる…けど…

ちゅぽ♡

ちゅぽ♡

「ん?言う事聞けない?
ご主人様の言うこと聞けない雌犬とは
もう遊んであげないけど?」

「わっわん♡わかりました♡
写真も上げるからあ♡
これからも雌犬みゆを
可愛がってください♡
ご主人様あ♡」

あ♡

今はご主人様が
一番好き:♡♡♡

LOVE

E-stagram

「最近つれないあの子の実態」の女子高生の後日談のイラストをお願いいたします。

・服装は制服は着ておらず、以前と同じ面積の少ないエロ下着(穴の空いてないもの)を着ていて

紐部分に使用済みコンドームがくくりつけられている状態で

以前と同じニーソにローファを履いてる感じでお願いいたします(下着はどの場面でも着崩れは無し)

・体中に卑猥な落書き(ま〇こマークとち〇こマークは無し)と正の字。

・陰毛はパンツからはみ出すモジャモジャの剛毛で可能でしたら脇毛も濃い目をお願いします。

・乳房は以前より1カップ大きくなった感じでお願いいたします。

・どこかで、全身図、背部のうなじ～膝までの範囲の後姿は描いて頂けるならお願いいたします。

・また良かったらこの娘にも名前をつけて頂けるならお願い致します。

設定はおまかせしますが、学校には行かなくなり、男(たち?)に輪姦される生活をおくり、上記の服装で過ごしており男のデカイナニを根本までくわえて馬かひょっとかみたいな顔して美味しそうにしゃぶって出た精液をぐちゅぐちゅして味わいうがいして飲み込んだら口を大きく開けて飲み込んだアピールしたり、パンツを履いたまま快樂でしょっちゅうお漏らししたり、がに股で腰振りダンスしたりなどお願いいたします。

続・最近つれないあの子の実態



投稿日:2022年3月20日

「えっうん
この人は...えっと
お兄ちゃん...なの
...ははは」

「迎えに来て
もらったんだ
じゃあもう
行かないとだから」

あやさき まど か
綾崎 真登香

「うん じゃあ
バイバイ♡」

本当はこの人は
私のセフレです
恥ずかしいから
ウソついちゃいました

彼は私の制服の下に
下品な衣装を着せたり
落書きするのが好きで

学校に行くときは
いつもこの衣装を着せ
て落書きするの

んん

んん

調教済

万年発情期

言いなりJK♡

IN

中古
生衣

サバイ

最近は学校に行くことも
少なくなってきたちゃい
ました...だって...

彼って束縛が
激しくって♡

2人っきりに
なった瞬間
求めています♡

ぐちゃぐちゃ

べっ

ホテルでも
私の部屋でも！
お構いなしです♡

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

私も彼とキスするだけで
お漏らしするように
なっちゃいました♡

グニッ

それもこれも
全部彼と

このおちんちんの
せいなんです♡

ズン...

フッ

ズン

ズン

あっ...
おっきいっ♡

目の前にちんぽ
差し出されたら...

彼に仕込まれた
バキュームフエラで
まずは二発抜きます♡

いっしょに

毎日シてるのに
すっごい量…♡

ふー

ぐほっ

いっしょっ

ほい

ぐほ

雲

「ほ、う」

3

ふー

10

三

お口に出された
ザーメンはこうして
彼に見せた後に……

万年

あんなに凶悪な
おちんちん
ぶら下げてるのに

勃ってきた♥
勃ってきた♥

私のお尻をじっと
見ちゃって…
ちよっと可愛いです♥

彼のために
いろんなポーズで
踊ってあげると

この後のチンハメを
想像して軽く
イっちゃいます♥

上手に勃起させられたら
彼が電マでおま●こ
いい子いい子してくれます♥

チンハメしてくれる
サインです♥

コッ

コッ

コッ

んんん

あ、ちんぽが
くらさるーい

ちんぽ
ちんぽ

っこんで

もっとおちんちん
おっ勃ててえ♥

電マ、ありがとう
ございまして

ひゃあ
あ、あ、あ♥

んんん

んんん

彼がパコリたくなったら：
お股を広げてお●んこ
使いやすいようにします

おちんぽお
くるうう♡♡

彼に教わった
『オナホの体勢』です♡

無防備のおま●こを
カリ首で削られる
ねっとりピストン♡

彼のおちんぽは
おっきい上に
カリ首がすっこい
張ってるので…

引き抜かれる度に
ガチイキしちゃい
ます♡
38

その後は彼が
我慢できなくなつて…

抵抗できない
獣みたいな
ガシガシピストンが
始まっちゃいます♡



ま●こも頭の中も
彼のことでいっぱいにな
っちゃって

とっつむぐざぐざわ
しちやいます♡

この時のハメ撮りを
後で見せられて…

気持ち良すぎて
気付かなかったん
ですけど…

カ
ン

っー

どろおろ

中出し
されちゃって
ました♥

おっー

初めて一番奥に
くらって…
全身ビクビクって
脈打って…

今までで一番
気持ち良かったのは
覚えてます♥

田舎王コヒ

グロ



でも危険日だったし…

赤ちゃんできちゃう
からダメだよって
言ったら…

何かあったら
責任取るって
言ってくれました♥

男らしくて
カッコいい彼と
出会えて

本当に
幸せです♥

いつもHなイラスト・漫画ありがとうございます。
リクエスト受けて頂けると嬉しいです。

プロフィール

阪本麻美(さかもとまみ)JK3年 テニス部マネージャー
ポニテ茶髪かロング茶髪、軽く日焼けしている
性格はきついが面倒見がよいお姉さん 経験人数1人
周囲からの評価
爆乳を揺らして働く彼女に部員は憧れの眼差し

校長

巨乳好きで可愛くて巨乳な阪本麻美を狙っており、
テニス部を人質に権力でHなことをしようと考えていた。
最初は先生なので阪本と呼ぶが、快樂墮ち後は麻美呼びする

話の大きな流れ

弱小テニス部の為部費が削られる事となり、校長に直談判。
部費上げの要求の為に3日(金曜日の放課後に直談判、
そこから土日の間に調教され、月曜日は校長の家で快樂墮ちしている)だけ
Hなこと(ちんぽ挿入なし)させてくれたら良いと言われ従うが、快樂墮ち。

入れて頂けると嬉しいシチュエーション

- ・直談判で爆乳を揉まれた阪本はやめなさいと強く拒むが、
札束で顔を軽く叩かれ欲しくないのかと言われ従う。
- ・悔しがり、睨みながらパイズリさせられ、顔射される。
(屈辱を味わいながらも、屈しないニュアンスの捨て台詞を吐く)
- ・おもちゃを使われ調教

M字開脚・手を上で縛り腋見せ状態・目隠し・猿轡・乳首にローターの状態で
バイブとアナルビーズを使い調教。

阪本がだらしのない所を煽って欲しいです。

- ・快樂墮ちし、下品な姿で騎乗位でスクワットするようにH
「麻美最初は強気で屈しないとか言ってたのに、すっかりオスを喜ばせる
雌豚になったな」と言われ、
「デカイ乳と顔だけが取り柄の雌豚がすみませんでした」と謝罪後、
テニス部の陰キャと金はどうでもいいから、これからも可愛がって欲しいと
願います。

色々リクエスト内容を上げてしまいましたが
気にいらぬ部分などは端折って頂いて構いません。
よろしく願います。

続続・年上チアリーダーの彼女を 先輩のデカチンに寝取られる



投稿日:2022年4月25日

「すみませんっ 阪本先輩
片付けばかり
させちゃって…」

『いいのよっ
これがマネージャーの
仕事なんだから…』

『それより
練習に集中することっ
次の大会は
あんな情けない結果
残さないでよ?』

私の所属するテニス部は
大会を控えている

皆それぞれの目標や
夢に向かって頑張ってる

それを支えるのが
マネージャーとしての
私の仕事

頑張ってる皆の姿を
見ているのが
それを支えているのが
私は楽しい嬉しい

大変だけど
●校生活を
部活に捧げてきて
本当に良かったと
思ってる

でも今日は…

金曜日
19:25

「随分遅かったな
阪本」

いつもとは違う
「仕事」をしてくちゃ
いけない…

「無理言わないで…
片付けとか色々
あるんだから」

「これからは気を付けろよ
私の言う通りにできないと」

「お前もあの部活も
私の思い通り
なんだからな」

「わっ
わかってるわよ…」

「ラフツッ相変わらず
凄い乳だなw
部員も全員この乳に
釘付けだぞw♡」

「ちょっと！
そんなことまで
するなんて
聞いてないっ！」

ずん

「ラフツッまさか
家に泊まるだけだと
思っていたのか？」
「お前は、この3日間
私の言いなりだ
言うことが聞けなきゃ
部活は停止だぞ？」

テニス部の大会を前に出された
理不尽な要求…
それはこの週末…2泊3日を
校長の家で過ごすこと

従わなければ
部は活動停止…
皆が楽しみにしていた
大会にも出場できない

「わっ分かった…
さっさと済ませてよね」

「聞き分けがいいな♡
では早速」

「ほほほw
この巨乳を
生で拝める日が
来るとはな♡」

「こんなもの
ぶら下げて
誘いおって♡」

ブルン

こんな男の言いなりにな
るしかないなんて…
最低の週末

「さあこっちに来て
この巨乳を使って
まずは奉仕して見せろ♡」

ピン



『そのバカみたいに
デカイ乳が
役に立ったなw』

『ほほう
いいぞ阪本♡
中々うまいじゃ
ないかw』

胸を使って
アソコをしごくなんて…
ホントに男って
悪趣味で最低

『いいぞっ
そのまま続けろっ
顔で受け止めるよ?』

ブルブル

『ふう♡
中々良い
パイズリだったぞ? w
さあ次は』

『相手になったんだから
これで終わりでしょ?!
何でも思い通りになるとしたら
大間違いだからっ!!』

『調子に
乗らないでっ!!』

『ほう…
私にそんな態度を取るかw
なら理解らせてやるか
自分の立場をな♡』

それから
始まったのは

終わらない
快楽調教だった…

「ラッラッ♡
もう全身どこでイッてるか
わからんだらうw」

「私の思い通りにならないなら
このまま壊してやっても
構わんだぞ？」

身動きも取れず
口も塞がれて
体のありとあらゆる所を
刺激されて

「そろつまたイケつ
二度と生意気な
口をきくなよ？」

イカされ続けた

「はっはっはw
何言ってるのか
わからんぞw」

「ほれっ
言いたいことがあるなら
言ってみろ♡」

もう私には

次の日の夜には
裸より恥ずかしい格好で
寝室に呼ばれて...

『勝手なこと...
言わないでよ...』
『お待たせ
しました...』
『ラフッ似合ってる
じゃないかw
アンバランスな
日焼け跡がそそるな...』

この男に屈するしか
道は残っていないかった...

『おっおちん●ん...
上から...失礼致しますっ...』

身体を使った
奉仕を要求された...

『!?』

『どうした?
さっさと挿れんか』
『だって...ゴムが...』
『ん?コンドームか』

プチ♡

「そんなもの
必要ないだろっ♡」

ド
ッ

「お前は私の言うことを
聞いていればいいんだ」

「どうなんだ？
聞いているだろ
阪本っ！」

「チン●に跨れと言え
ばすぐさま挿れろ
わかったか？」

『ううううはいい…
わかりましたあ…』
『デカイ乳だけが取り柄の
メス豚が生意気言って
すみませんでしたあ♡』

「はっはっはw
良い表情だな♡
一晩で私のチ●ポ無しじゃ
生きられないメスに
変えてやるからな♡」

人生で初めての生挿入…
肉棒で挟まれるたび
全身に走る絶頂の波に

私は…

耐えられ
なかった…♡

「あんっ♡
この体勢やバいい♡
子宮つつくの
反則う♡」

「最初は強気で
調子に乗るなっとか
言ってたクセに…」

「すっかりオスを喜ばせる
メス豚になったな♡麻美♡
自分から良い所に当ておって♡」

あひ♡

やあん♡

「らってえ…
こんなの知っちゃったらあ♡
女の子は誰だっって
こうなっちゃうのぉ♡」

「はっはっw
お前が淫乱な
だけじゃないか♡
思っただ通り逸材だったな♡」

「これからも
私の言うことを聞けば
毎晩抱いてやるぞ?」

「私のハメ穴妻になれ♡
麻美♡」

「あああん♡そんなことお
おちんち●ズボズボされながら
言われちゃったら…♡」

「わかりましたあ♡
私 阪本麻美はあ♡

旦那様のハメ穴妻として
一生ご奉仕いたしますう♡」

「これからもいっぱい
可愛がってください♡」

その日を境に
私は部活にも…
学校にも行かなくなった…

だって私にはもう
お仕える旦那様の
おちん●んがあるから♡

旦那様あ♡

♡

♡

たっぷりだして
くりゃい♡

もも先輩 デートNTR編

状況

もも:身体完堕ち、心は表面上まだ、裏はほぼ堕ち、
ちんぽの事になると我を忘れる
前回より更に下品過激なことも受け入れる

話の大まかな流れ

先輩を奉仕中、りゅー君とデートしながらデートをしようと命令され聞き入れる。
ももは度々先輩に呼び出され性処理をさせられ、
最終的にはりゅー君放ったらかしで先輩とのHなデートを楽しむ。

欲しいシチュエーション

・エロメイドコスで授乳手コキ中にデートの提案、流石にそれはとなるが、
ちんぽを顔に擦り付けられ、「命令を聞かないと先輩ちんぽ1週間禁止で
りゅー君ちんぽを1週間使わせる刑にするぞ」と言われ
粗チンじゃ満足出来ないももはちんぽの為に聞き入れる。

・デート

服装・落書き・乳首ピアス・おもちゃ等々おまかせ(落書きが透けそう、
見えそうだと嬉しい)

・りゅーくんをオナホでイカせたあと、先輩にもも自身をオナホとして使ってもらう。
(これまでだとしなかったような下品な芸やセリフなど、おまかせします)

・デートを途中で抜け先輩とHな事を楽しんでいるももは
「デート楽しかった」と電話で連絡を入れないとピストンやめるぞと言われ
連絡をする。
連絡に満足するりゅーくんだが、裏ではHでイキまくり、先輩に言いなりで、
やらしい写真撮影をしている。

・落書き(先輩専用オナホ、雑魚マンだけどりゅーくんは即イキwww、
自慢のデカ乳等々お願いします)
アヘ顔で、M字開脚(マンコを片手で広げる)・ピースして記念撮影に応じている。

欲しいセリフ

・あいつ最近ももよりオナホに夢中だから。それなのにオナホですぐ
イク粗チンなんですけどねwwwとこれまでより先輩に墜ちていて、
りゅーくんを雑にする発言が欲しいです。

全体的に今回はりゅーくんにより屈辱を味あわせてかつ、
ももがちんぽのためにプライドを捨て下品や過激なことをさせて欲しいです。

続続・年上チアリーダーの彼女を 先輩のデカチンに寝取られる



投稿日:2022年7月15日

『お待たせっ
りゅーくん♡』

「ももセンプイっ♡」

僕の彼女ー

笠井ももセンプイは
1つ年上のチア部の先輩

部活で恋愛が禁止されている
僕達はこうして少し離れた町で
デートすることが良くある...

いや、あった

最近ももセンプイは
部活や勉強で忙しいらしく
放課後も一緒に帰れないことが多い

前までは家まで一緒に帰って
...エッチもしていたけど...

『どうしたの? りゅーくん
ぼんやりしちゃって...』

「いやっ... なんか
センプイの私服見るの久々で...
大人っぽくなったというか
...カワイイですっ!!」

久々にももセンプイと
二人っきり...
話したいことも
行っていた場所も沢山ある
でも一番は...

「っ... センプイっ!!
一回止めてっ」

ズッ

『もうっなにそれ(笑)
それより... 今日
久々のデートなんだから
いっぱい楽しもうね?』

「っ... ハイっ!!」

『フッフっ気持ちいい?
りゅーくんっ?』

ズッ

『良いんだよ？
そのまま出しちゃって(笑)』

『でもっ…こういうの久々だし…
セソパイとエッチしたくてっ…ああ!!』

2カ月くらい前
ももセソパイは突然僕に
オナホを渡してきた
最初は動揺したけど…
それも僕を思ってるの
ことだったらしい

言いつけ通り僕は
ももセソパイとエッチはせず
オナホですぐにイかない
練習を続けてきた

今日は久々の
ももセソパイとのデート
練習してきた僕と
エッチしてくれるのかと
思ったけど…

「っ…!!もう出るっ!!」

久々の射精も…
いつも通りオナホで
してしまった—

「セ…セソパイ僕…
セソパイとその…」

『あゝ(笑)今日はもう
終わりにしよう？
オナホでイっちゃったし…』

「っ…でもっ!!」
『二発出して勃つ?(笑)
練習なら付き合っただけから
焦らないで?ね?』

結局この日僕は情けなく
射精しただけで
ももセソパイとキスも
裸を見ることも出来なかった

「で?してきたのかよ…」

「処理」

『はい…してきましたあ♡
してきましたからあ…』

んほ♡

グググ

おっ

グググ

『今度は ももの
オマ●コお●』

『セニパイのオナホに
して下さいい●』

っほ
♡

いっちゃう♡

おっ
♡

♡

♡

♡

♡

♡

これやば♡

いきそ♡

「へへWWりゅーの奴が見たら
ぶっ倒れるだろうなW
自分のことはオナホコキしか
してくれない彼女が
別の男にはマ●ズリして
チン●ねだってるなんてなあWW」
『だってええ♡これししないと
セニパイチ●ポ貰えないからあ…♡』

そう…全部
この人のせい

先週からずっと
セニパイはおチ●ポ
してくれない…

こんな立派なモノ見せつけて
触るだけで終わらされて

命令を聞けないと
二週間セニパイチ●ポ禁止
りゅーくんチ●ポの刑にするぞって
脅されて

…だから今日だって

デート中も…
この時のことしか
頭に無かった…♡

オチ●ポしてもらう
条件…それは
りゅーくんとのデートして
オナホで処理した帰りに
センパイの元に来ること♡

「良いももいつもの
やってみせる♡」

『ハイッセンパイ♡』

ゴメンねりゅーくん
最初の頃は嫌だったけど
…私

『センパイのお…♡
遅いオチ●ポでえ♡
オナホに夢中ですぐ出ちゃう
ザコチーなりゅーくんに変わってえ…』

んほ♡

『ももの穴っぽこ
いっぱい可愛がって
下さい♡』

今はもう…
センパイのチ●ポ
大好きにな
ったちゃったのお♡

「へへへwとんでもねえ
下品な女に育ったなw
ケツ振ってるだけで
マ●汁だらだらじゃねえかw」

「ただ今日は…
まだこれだけじゃ
ねえけどな♡」

りゅーくん

「もしもし？ももセンパイ？
どうしたの？」

「あっ…りゅーくん♡
ううん用事はないんだけど…♡
デート…楽しかったねって…
♡っん思ってる♡」

「そっそうですね！
僕も…楽しかったです
あの…今度は僕…
オナホじゃなくて前みたいに
センパイと…」

『っんああっ♡♡』

「?!っどうしました？」



「ごめんなさい…
ホントは僕ももセンパイと
エッチなことしたくて…
貰ったオナホでも
練習してたんですけど…」

ダメっ…♡こんなおっきいので
パンパンされながらなんてえ…

カンケルない人の
話なんて…
聞いてらんない♡

「だから僕…」

ちょ…この体勢…♡

一番深くまで
来ちゃうヤツ♡♡

「もしもし？
ももセンパイ？」

『ごめんね…
りゅーくん♡』

「え？」

「おいw何勝手に切ってんだよ？」

「うってえ♥この体勢は反則う♥
エツちな声絶対抑えられない♥
お子様セックスしか知らない
りゅーくんには刺激強すぎだから
聞かせらんない♥」

センパイ凄すぎるう♥
大きさも体力も…
アレとは全然違うう♥

「wawwだなw
この本気セックス
味わえるのは」

「俺とももだけの
特権だもんな♥」

今までの
セックスって
何だったのおー…♥

『りゅーくニゴメンねえ♥
私い♥オナホコキ専用の
おままごと おちんち♥じゃ
なくてえ…
女の子をちゃんとイカせられる
セニパイの ムギムキチ♥ポ
じやなきやダメなの♥』

『セニパイは
彼氏がいる ももを
いじめるのが
大好きだからあ…
セニパイの為にも
まだ彼氏でいてね♥♥』

『もものオマ○コは
セニパイ専用だから、
これからオナホコキで
ザコ遺伝子処理して
あげるからね♥』

りゅーくんは
即体です

「ほらっもも♥
いつまでもち♥こ
しゃぶってねーで鏡見るW」

「ふああい♥
「へへwwすつかり
マ○コ顔だなw
りゅーに謝っどけw」

「へへwひでー女w
今の聞いてたら
コフンしてきたわw
もっかいやるぞもも♥」

『あゝん♥何回でも出来るセニパイ
カッコいいです♥ もものオナホマ○コで
いっぱいビュビュして下さいね♥』

はじめまして。先生のNTR調教作品に感銘を受けてリクエストさせていただきます。

・シチュエーション

木山沙織は女子バレー部の主将

185cmの長身でスリーサイズは99-61-100

主人公は彼女に好意を抱いているも高嶺の花、
突如姿を消した彼女がとある船にいるという噂を聞いた主人公は船員として
そこに忍び込む

金持ち達による治外法権の豪華客船で沙織を見つけるも、そこで見たのは
全裸で四つん這いになり男を背中に乗せ、「乗り物」として扱われる沙織の姿だった
男に足を床から離して全体重を押し付けられ、スピードが落ちれば鞭で叩かれ、
「ヒヒーン」と馬の鳴き真似をさせられ、

神から与えられた大柄な身体も、バレーで鍛えた肉体も、

ここでは金持ち達を喜ばせるために消費され…

そんな様子に主人公は悔しくてならない

しかし沙織の厳しいバレー部生活で培われた体力や根性、従順さは

金持ち達にとっての格好の玩具であり何度も何度もイカされる

余興として主人公と交尾することを命じられ、主人公を抱きかかえての

逆駅弁セックスや主人公をおんぶしてのレースなど

主人公を巻き込んだ恥辱プレイが行われ

完全に堕ちている沙織は主人公に気づくことはなく

一方で主人公も憧れの沙織とセックスできたことよりも、

仮にも男の自分を軽々と抱きかかえたりおんぶしたりできる沙織の

高い身体能力がバレーで活かされればどんなに活躍できただろうと悔しが

るそして最後はまた金持ちの男の「乗り物」として四つん這いで背中に乗られて

沙織は歩かせられるのだった…

馬にされたあの娘 高身長バレー部女子



投稿日:2022年8月21日

きやまさおり
木山沙織

身長185cm

女子バレー部の

キャプテンであり

僕の
好きな人…

でも僕は
いつも木山さんを
体育館のネット越しに
見ているだけ

運動神経も

クールだけど

可愛らしい

その表情も

身長も

ハイルッ♡

僕には到底
手の届かない存在

そんな彼女を
傍で見たいられる
だけで僕は

幸せだった

木山さんが
行方不明に
なったのは
3カ月前

学校中が騒ぎになったが
その行方を知っている人は
いなかった

必死に探して
ようやくたどり着いたのは
港に停泊している船だった
彼女のことを心配するあまり
一人で船に乗り込んだが
そこで僕は
中にいた外国人の男達に
捕らえられてしまった

「今日はまた
別の『メス馬』が
来るらしいですよ(笑)」

「なんでも今日のは
『日本産』だとか(笑)
楽しみですな」

「で? あれはなんですか?」

「特別ゲストらしいですよ(笑)
今日のメス馬を助けに
来たみたいですが(笑)」

会場内で飛び交う英語…
僕にはその全容を
理解できなかったが

ここに集まっている人間が
皆悪趣味なことを
話していることだけは
何となく分かった

「お集りの紳士の皆様
大変お待たせ
いたしました」

「早速本日の主役を
お呼び致しますよ」

亦

✍

木山さんの姿
だった…

「おおお♡これはまた
良いメス馬を
仕入れましたね♡」

バレ―部で鍛えられた
その肉体は
男を乗せて歩き回る
乗り物として
利用され

隠さなければ
ならない場所
も容赦なく
放り出されていた

「ほらっサオリ♡
皆様に♡挨拶だぞ」

おおく

ホ✓

和

水

未✓

ה"ח

が

ほ

お

知

ホ



お

ホ、



かっ

クハ



[illegible][illegible]

「ほら
そつちじゃないぞ？
そうそう
そのまま進め♡」

男に馬乗りにされて
逃げられない状態で
性器を弄ばれる
木山さんが……
ディルドで
方向を指示され
僕の方に近づいてくる

僕はそれを止めることも出来ず……
憧れの人が凌辱されているのに
勃起してしまっていた

それを見た男達は
僕に避妊具を付けた……

嫌な予感が出た

「さあ皆さん
まずはこの
特別ゲストを交えての
お楽しみ……」

66

「ほら
そつちじゃないぞ？
そうそう
そのまま進め♡」

男に馬乗りにされて
逃げられない状態で
性器を弄ばれる
木山さんが……
ディルドで
方向を指示され
僕の方に近づいてくる

僕はそれを止めることも出来ず……
憧れの人が凌辱されているのに
勃起してしまっていた

それを見た男達は
僕に避妊具を付けた……

嫌な予感がした

「さあ皆さん
まずはこの
特別ゲストを交えての
お楽しみ……」

66

「ほら
そつちじゃないぞ？
そうそう
そのまま進め♡」

男に馬乗りにされて
逃げられない状態で
性器を弄ばれる
木山さんが……
ディルドで
方向を指示され
僕の方に近づいてくる

僕はそれを止めることも出来ず……
憧れの人が凌辱されているのに
勃起してしまっていた

それを見た男達は
僕に避妊具を付けた…

嫌な予感が出た

「さあ皆さん
まずはこの
特別ゲストを交えての
お楽しみ！」

66

[illegible]

「ぼろ
そつちじやないぞ？
そうそう
そのまま進め♡」

男に馬乗りにされて
逃げられない状態で
性器を弄ばれる
木山さんが……
ディルドで
方向を指示され
僕の方に近づいてくる

僕はそれを止めることも出来ず……
憧れの人が凌辱されているのに
勃起してしまっていた

それを見た男達は
僕に避妊具を付けた…

嫌な予感が出た

「さあ皆さん
まずはこの
特別ゲストを交えての
お楽しみ！」

66

「ほら
そつちじゃないぞ？
そうそう
そのまま進め♡」

男に馬乗りにされて
逃げられない状態で
性器を弄ばれる
木山さんが……
ディルドで
方向を指示され
僕の方に近づいてくる

僕はそれを止めることも出来ず……
憧れの人が凌辱されているのに
勃起してしまっていた

それを見た男達は
僕に避妊具を付けた……

嫌な予感がした

「さあ皆さん
まずはこの
特別ゲストを交えての
お楽しみ……」

「おおお(笑)
日本人のカキ程度なら
軽々ですね(笑)」

「いいぞそのまま
射精させろ(笑)」

「メス馬サオリちゃんの
公開搾精ショーです♡」

軽々僕を持ち上げて
木山さんは
自分から腰を振って
射精を促す

人生で初めて
しかも憧れの木山さんと
繋がったのに...
その体験は
ここにいる男達にとっては
見世物の一つにしか
過ぎなかった

木山さんの
がっしりとした...
それでいて女の子らしい
柔らかい体で
一方的な体勢で
ペニスを刺激されて...

ズン

ズン

「ほほほ(笑)
すごい体位ですね(笑)」

「ほっほっほ」

「体格も良いし
体力もありますね♡
これは良い繁殖牝馬に
なりそうだ(笑)」

初めての僕には
こんな

耐えられる訳が
無かった

ドロォォ♡

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

「おやおや
もう出しましたよ
あのガキ(笑)」

「サオリちゃんには
不釣り合いなオス
でしたねえ(笑)」

「サオリちゃんに
大きな拍手をっ！」

木山さんは最後まで
僕に気付くことなく
事を終わらせて
男の元へ戻ると

甘えた声で何かを
促し始めた
それは

「んお♡ほおお♡」

「そうだな(笑)
上手に芸が出来た家畜には
褒美をやらんとな(笑)」

「さあお待ちかねの」
「公開種付けシヨ」
「ですよ(笑)」

「ほらサオリっ
今度は、本場の
生ニンジンだぞ♡
欲しいか?」

男に褒美として
性行為をねだる
鳴き声

「ガツハハハ(笑)
なんと卑しい
種付け懇願(笑)」

「いい子だっ♡
メス馬として
良血馬を
孕んだぞ♡」

射精後の
脱力感と凌辱感で
立ち上がれない
僕の目の前で
僕の時には
出さなかった
獣の様な声で
喚きながら
木山さんは
男との交尾を始めた

日本人では
見たことのないような
大きく隆起したソレで
中を抉られる木山さん

こんなにひどいことを
されているのに木山さん
何でそんなに
嬉しそうな声を
出してるんだ

「さあ…まずは
記念すべき一発目ですね♡」

「ひよろひよろのガキではなく
優秀な我々の遺伝子を買って
ま●こも喜んでますねえ(笑)」

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

「さあ皆様
お披露目は
これにて終了です」

「この後は二晩
ベッドルームに
皆さんにじっくり
このヌメ馬を味わって
頂きますからね♡」

「では皆さん
ベッドルームに移動して
ください♡
順番にこの馬に
乗って頂け
ますからね♡」

さらなる凌辱が
待っている部屋に
自ら男たちを引き連れて
歩かされる木山さん
僕が最後に見たのは
そんな彼女の後姿だった

ムチを入れられると
木山さんは会場の外へと
歩き出した。

こんな男たちに
目を付けられなければ
バレ一部で活躍する
普通の女の子だった
はずなのに…

種付けされた陰部を
大股開きで晒す
木山さんに
男が再び騎乗する…

彼女の体は…そんなことを
するためのモノではない